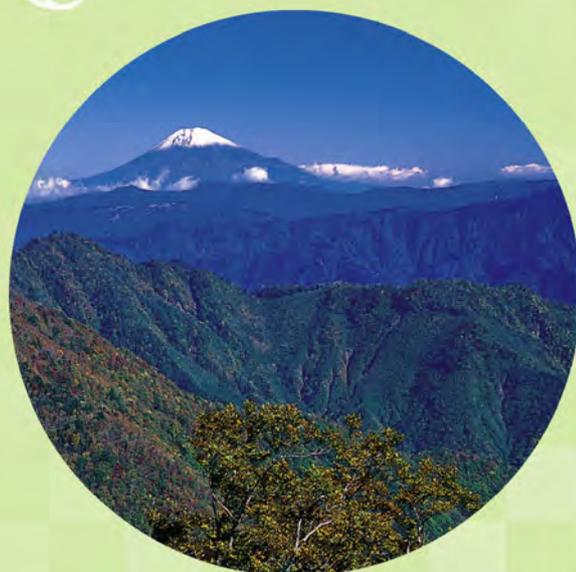


2013-2022

川根本町観光振興計画

雄大な自然が癒す ふるさとのまち 川根本町
～新緑・紅葉・大井川・お茶と温泉・SLのまち～



平成25年3月
川根本町

ごあいさつ

近年では、人口減少や少子高齢化など、本町を取り巻く状況は厳しくなっています。こうした中、町民の皆様だけでなく、町外から訪れる来訪者が魅力を感じ、交流人口の増加を図っていくことが大切です。

観光は本町において主要産業の一つであり、まちづくりそのものです。晴れて昨年、寸又峡温泉が開湯 50 周年を迎え、様々な記念イベントや関連行事が執り行われ、多くの観光客で賑わいました。しかし、寸又峡も最盛期に比べれば、旅館や商店は減少している状況です。

近年では、旅行形態の個人化や小グループ化、旅行商品の低価格化、体験型観光等の旅行ニーズの多様化など、観光客の嗜好が変化する中で、まちの魅力を活かしながら新たな挑戦を始めなければなりません。これまで本町では、観光振興のため、総合計画を基にさまざまな施策を実施してきましたが、観光動向を先読みし、新たな波を起こそうという気構えがない限り、多様な観光客のニーズへの対応は難しいと考えます。そのため、新たにまちの観光の指針となるよう観光振興計画を策定し、まずは地域の声を集め、共に取り組めるような合意形成と協力体制を築いていきたいと思えます。また、観光を起点に各種産業の活性化を図り、地域産業の元気を取り戻すとともに、新たな雇用を生み出すことで、町の活力の向上や投資意欲を引き出せる環境づくりを目指します。

観光は元より、安らぎや自己を見つめ直すための行為と考えるなら、まちの魅力を最大限に、本町を満喫していただくための仕掛け作りが大切だと考えます。日常の時間の流れとは異なる、川根時間を楽しみ、「江戸しぐさ」ならぬ「川根しぐさ」を起こし、品格のある^{むら}邑づくりに町民の皆様のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

終わりに、この計画の策定にあたり、川根本町商工観光委員をはじめ、各種調査などにご協力いただいたすべての皆様に心から感謝いたします。



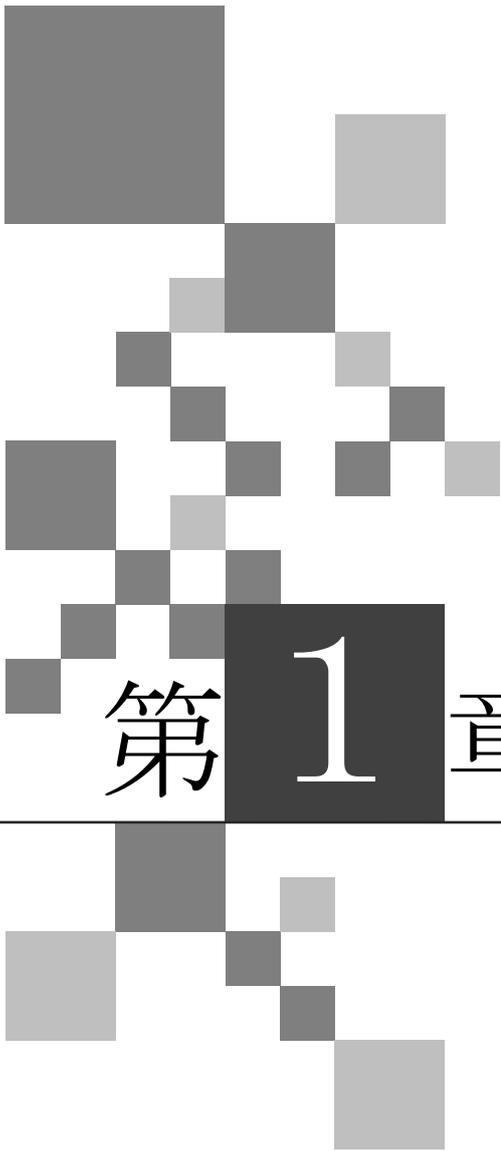
平成25年3月

川根本町長 佐藤 公敏



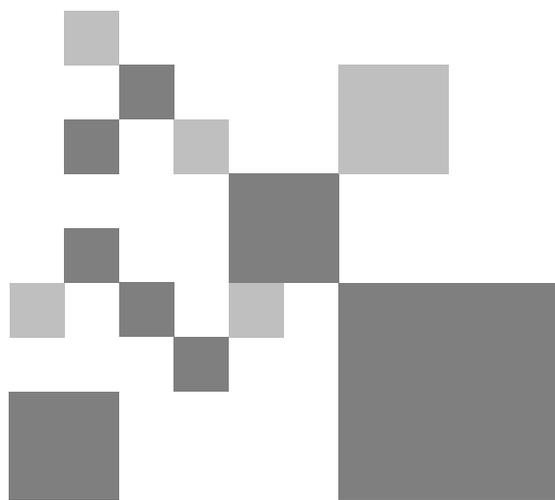
目次

第1章 計画策定の趣旨	1
1. 計画策定の背景と目的	2
2. 計画の位置づけ	3
3. 計画期間	3
4. 計画策定の経緯	4
第2章 観光に関する現状と課題	5
1. 川根本町の概要	6
2. 川根本町の現状	7
3. 本町を取り巻く観光の状況	13
4. 各種調査等からみた川根本町の課題	16
第3章 計画の基本的な考え方	19
1. 将来像	20
2. 目標値	20
3. 基本方針	21
4. 施策体系図	22
第4章 重点的に取り組む施策	23
1. 川根本町として訴求すべき観光イメージの確立	24
2. 観光・宿泊拠点のイメージアップ	24
3. 多様なニーズに対応した、テーマ性のある観光商品の開発と通年観光利用の促進	24
第5章 具体的な施策の展開	25
1. 訴求すべき観光イメージの確立	26
2. 観光・宿泊拠点のイメージアップ	27
3. 多種多様な観光商品の展開	28
4. 地域のブランド創造の促進	29
5. 多彩な人材の発掘と育成	30
6. ホスピタリティ（おもてなしの気持ち）のしくみづくり	31
7. 効果的なプロモーション	32
8. 情報提供体制の整備	33
9. 景観形成と景観修景	34
10. 道路環境の整備	35
11. 交通環境の整備	36
12. 観光施策推進に向けた連携体制づくり	37
資料編	39



第1章

計画策定の趣旨



第1章 計画策定の趣旨

1. 計画策定の背景と目的

川根本町（以下、「本町」という）は、東に静岡市、西に浜松市、南に島田市と隣接し、北には奥大井・南アルプスの山麓と前衛の山々を臨むことができ、大自然が織り成す四季折々の美しさを楽しむことができるまちです。

まちのほぼ中央を南北に流れる大井川とその支流には、深く切り立った美しい渓谷や河川が屈曲して流れる「穿入蛇行（せんいゆうだこう）」などの自然景観を随所で見ることができます。この大井川とその支流には長短あわせて10を超える吊橋が架かっていますが、そのうち寸又峡の「夢の吊橋」は、世界最大級のロコミサイトから「死ぬまでに渡りたい世界の徒歩吊橋10」に選ばれるなど、本町を代表する観光スポットの一つとなっています。

さらに、「美女づくりの湯」と呼ばれる寸又峡温泉や「若返りの湯」と呼ばれる接岨峡温泉などの温泉が湧出し、町民と観光客の心と身体を癒してきました。

また、本町には、常時SL（Steam Locomotive・蒸気機関車）が走る大井川鐵道と、日本唯一のアプト式鐵道を有する南アルプスあぶとラインがあり、テレビや雑誌などのメディアに数多く取り上げられるなど、知名度も高く、昭和の面影を残す駅舎とともに、映画やドラマの撮影に利用されることも多く、重要な公共交通機関であり、貴重な観光資源にもなっています。

しかし、本町の過疎化は深刻で、旧中川根町と旧本川根町が合併し、新町・川根本町が誕生した平成17年の国勢調査において8,988人であった人口も平成22年には8,074人に減少しています。この人口減少には歯止めがかからず、定住人口の確保が求められるなか、観光における交流人口の拡大は、人口減少及び地域活性化のための対策として不可欠となってきました。

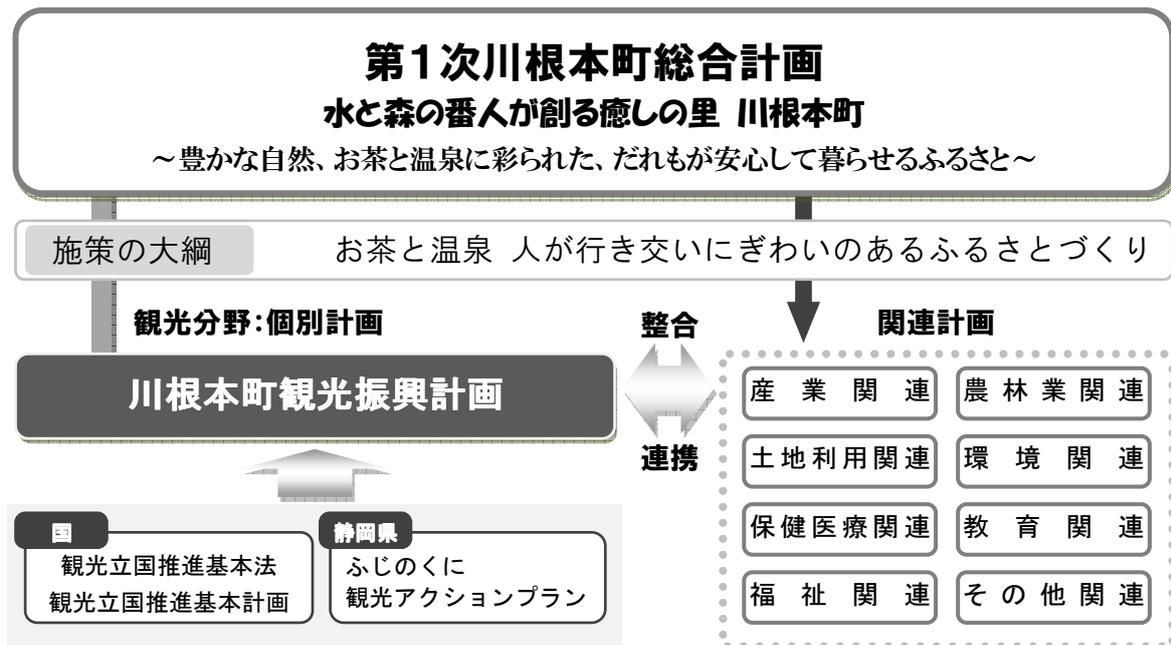
こうした中、平成21年6月には富士山静岡空港開港、平成24年4月に新東名高速道路開通など近隣でのインフラ整備が進み、本町へのアクセスも格段と向上しており、地域経済の活性化はもちろんのこと、本町の観光振興の推進に向け、それらの広域的な利活用が求められています。また、少子高齢化や情報化、近年存在感を増しつつあるインバウンド（訪日外国人客）の増大など、急速に変化する社会環境に柔軟に対応し、まちの特性を生かした観光客の誘致が重要となってきています。

まちでは、これらの背景をもとに、「川根本町観光振興計画」（以下、「本計画」という）を策定し、本町の観光振興において戦略的な観光施策の展開を図り、交流人口の拡大や地域の活性化を目指すものであり、「第1次川根本町総合計画」の観光分野における具体的な方針として、本計画を策定するものです。

2. 計画の位置づけ

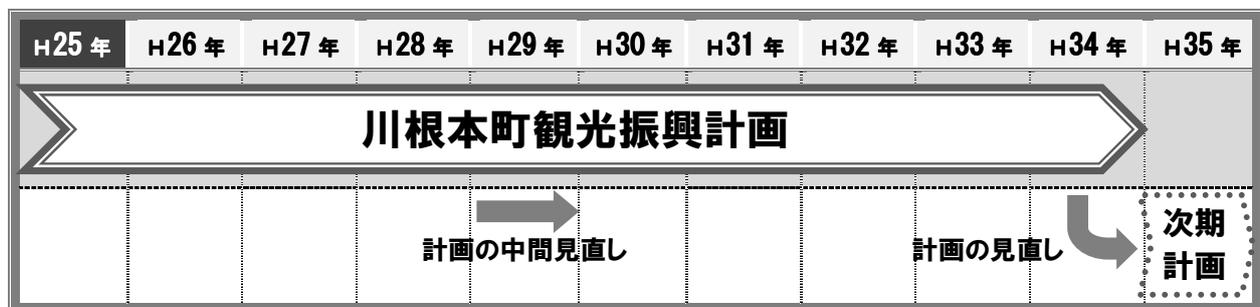
本計画は、「第1次川根本町総合計画」の観光分野の個別計画として位置づけられるものです。

また、国や県の観光にかかわる計画及びまちの関連計画との整合性を図り、観光振興についての理念や方向性、具体的な施策などで構成され、観光振興における役割や連携体制などについても明らかにするものです。



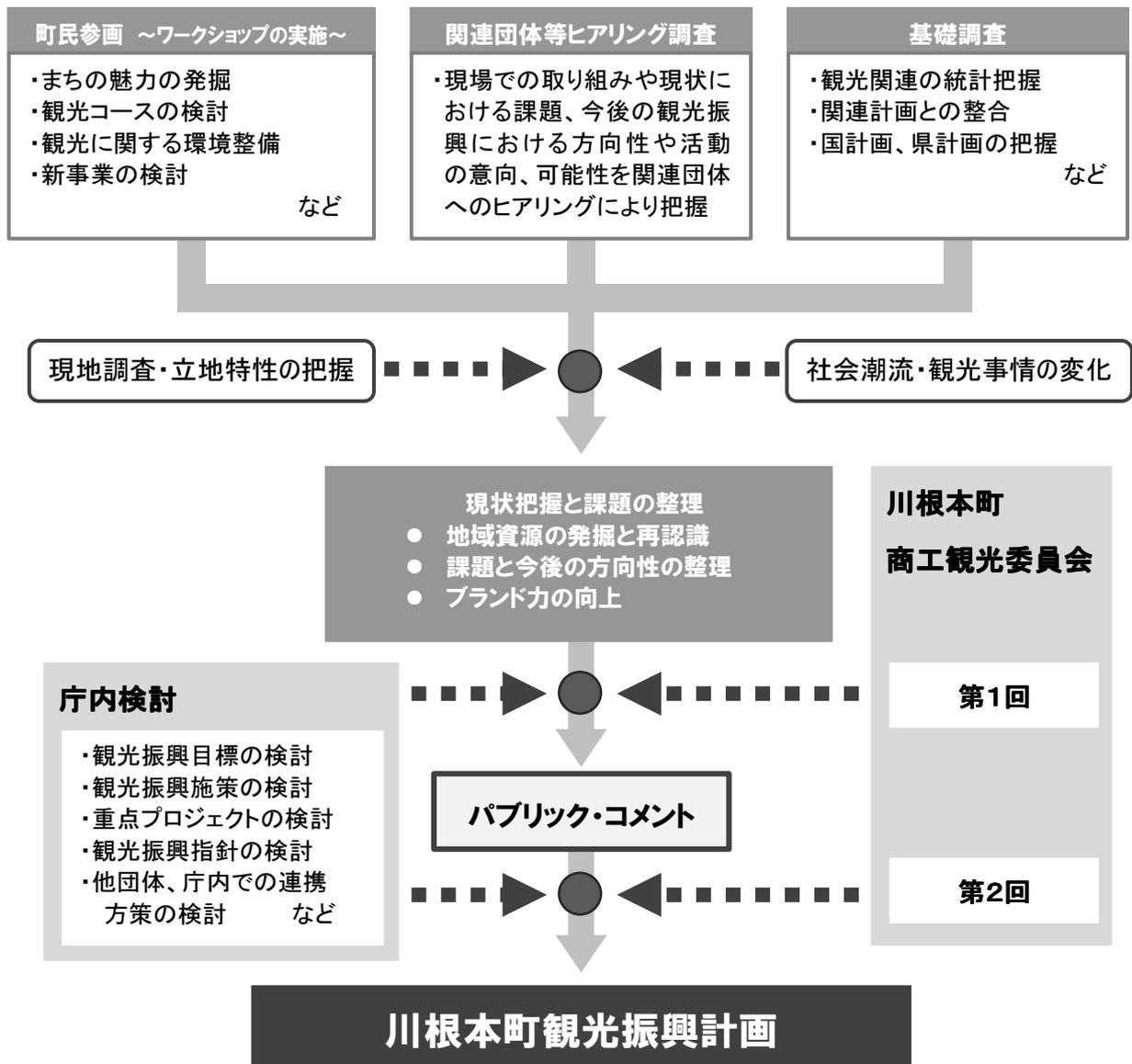
3. 計画期間

本計画は、平成25年度を初年度とする平成34年度までの10か年の計画とします。また、計画期間中及び計画期間の満了時には、社会情勢や町並びに観光を取り巻く状況を考慮し、適宜見直しを行うものとします。



4. 計画策定の経緯

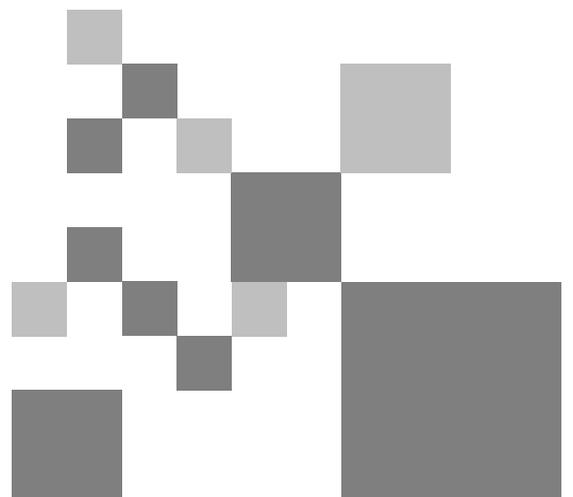
本計画の策定は以下の流れに沿って進められ、川根本町商工観光委員会での審議も踏まえ策定しています。





第2章

観光に関する現状と課題



1. 川根本町の概要

■位置・地勢

本町は静岡県中央部に位置し、東は静岡市、西に浜松市、南は島田市に隣接し、北は長野県との県境となっています。本町は東西約 23km、南北約 40km と南北に細長く、面積は 496.72k m² となっています。そのうち、集落は東西約 15km、南北約 20km の範囲に点在していて、町の面積の約 94% が森林という自然豊かな環境となっています。

また、東西の境界は 700～2,600m の山々で遮られており、まちの中心を南北に流れる大井川と寸又川等の支流に沿って、美しい渓谷が築かれています。

なお、本町の最北部、光岳の南西側の一帯は、全国で 5 箇所、本州では唯一の原生自然環境保全地域に指定され、人の活動に影響されることなく原生の状態を維持している大変貴重な自然環境となっています。

■歴史・沿革

本町には、旧石器時代（約 3～4 万年前）から人が住み始めたとされ、町内では縄文時代（約 1 万年～2,500 年前）の遺跡が数多く発見されています。

また、江戸時代以前には、大井川右岸は遠江国に、左岸は駿河国に属していて、明治 4 年の廃藩置県により、遠江国は浜松県に駿河国は静岡県の管下となり、明治 9 年に浜松県が廃止されるまで、属する令制国や県が違ふという時代がありました。

さらに、明治 22 年の町村制により、榛原郡に藤川・水川・上長尾・下長尾・久野脇の 5 カ村が合併した中川根村と、崎平・千頭・奥泉・犬間の 4 カ村が合併した上川根村が、志太郡に堀之内・田野口・壺町河内・下泉・地名の 5 カ村が合併した徳山村と、上岸・青部・田代・藤川・桑野山・梅地の 6 カ村が合併した東川根村が誕生しました。

続いて、昭和 31 年 9 月、中川根村に徳山村を編入して新しい中川根村が生まれ、一方、上川根村と東川根村が合併して本川根町が誕生しました。なお、昭和 32 年 3 月には、本川根町文沢地区を中川根村に編入しています。

その後、中川根村は昭和 37 年 4 月に町制を施行し、中川根町となり、平成 17 年 9 月、平成の大合併により中川根町と本川根町が合併し、川根本町が誕生、現在に至っています。

なお、本町はかつて、稲作や木材・木炭製造、椎茸栽培などが主産業で、茶の栽培は近世初期から始まり、明治以降は輸出産業として高い評価を受けていた時期もありました。

また、明治末からはダム建設が始まり、大正・昭和には発電所の建設が進み、昭和 6 年 12 月には大井川鐵道が全線開通しました。また、高度経済成長期には工場誘致と寸又峡温泉などを中心とした観光の取り組みが進められ、昭和 40 年頃からは、道路や橋などのインフラ整備や公共施設の整備とあわせて、観光の拠点施設の整備が行われました。

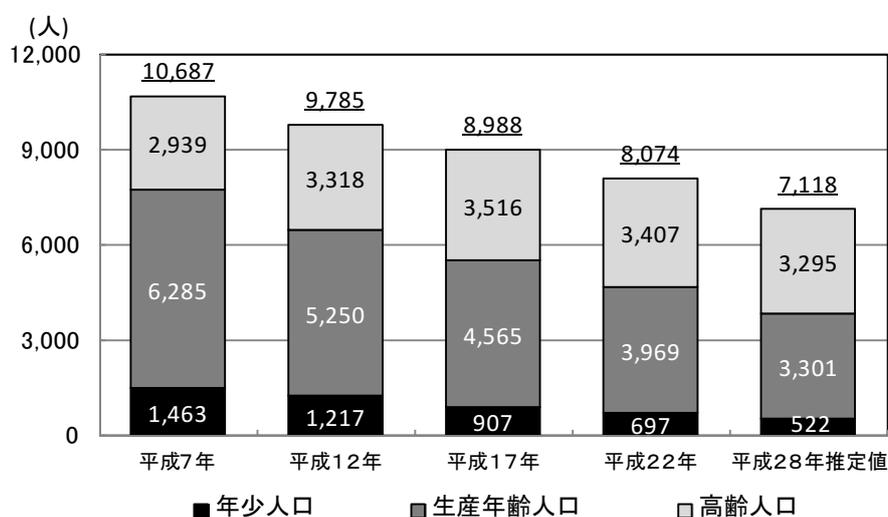
2. 川根本町の現状

■人口・世帯（年齢別3区分、世帯数の推移）

本町の人口は、平成7年の国勢調査時には10,000人を超えていましたが、年間160～180人程度減少し、平成22年の国勢調査では、8,074人となっています。

また、このままの人口減少が続くと平成28年には7,118人程度になると予測されています。なかでも、年少人口（0歳～14歳）と生産年齢人口（15歳～64歳）の減少は深刻で、まちの産業の低迷や地域の担い手の不足が危ぶまれています。

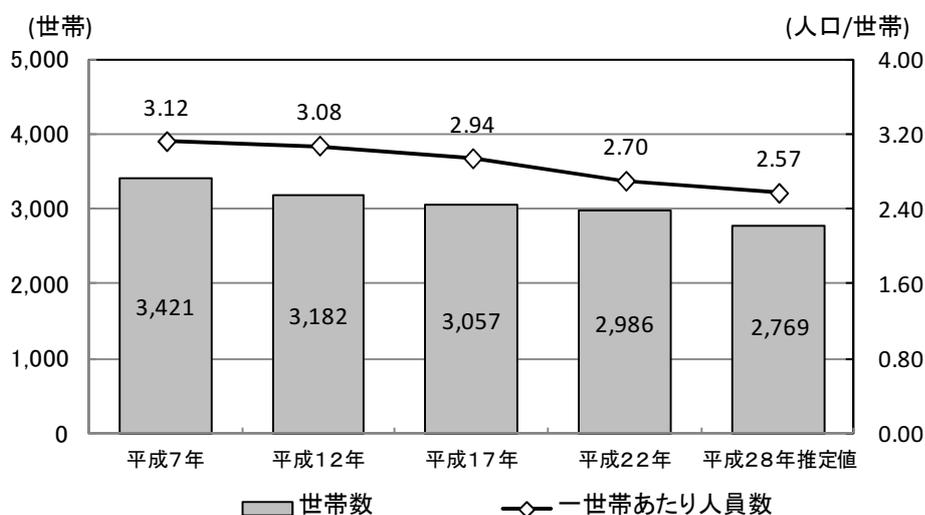
ただし、本町の現状をみる時、65歳以上の高齢人口の増加が必ずしもまちの活力低下に繋がっている訳ではありません。むしろ元気な高齢者が町を牽引している場面も数多く見受けられ、観光においてもその活躍が期待されます。



出典：国勢調査

平成28年はコーホート要因法による推定値

本町の世帯数は、平成7年には3,421世帯ありましたが、平成22年には2,986世帯に減少しています。また、一世帯あたりの人員数も減少しておりますが、これは高齢者のみの世帯や一人暮らし高齢者をはじめとする単身世帯が増加している影響と思われる。



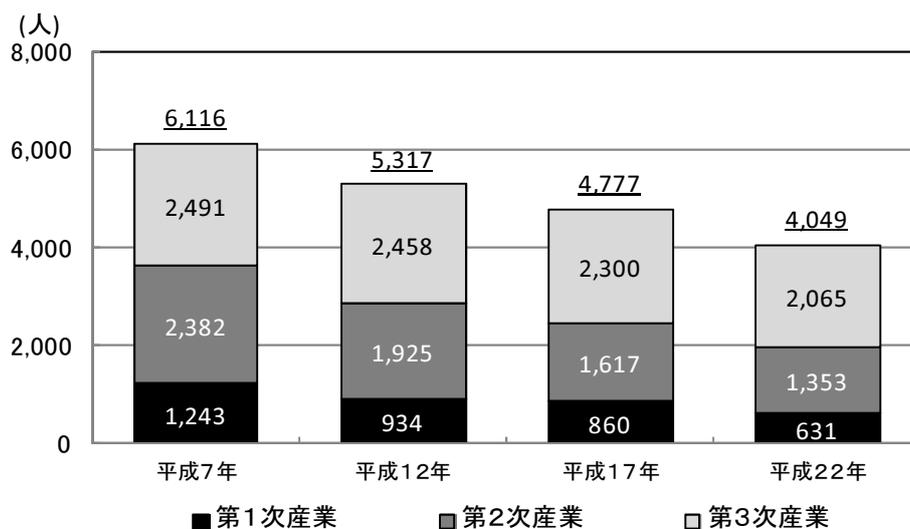
出典：国勢調査

平成28年は平成12年から17年の回帰予測による推定値

■産業（産業別就業者数）

本町の産業別就業者数は、第1次産業、第2次産業で減少傾向にあります。観光が関係する第3次産業では、平成7年から平成12年は微減でしたが、それ以降は減少の割合が徐々に大きくなっています。

今後は、地域経済の活力を向上させるため就業者の割合が高い第3次産業の活性化を図るとともに、第1次、第2次、第3次産業の連携により地域産業の振興に複合的に取り組む6次産業化を推進することも重要です。



出典：国勢調査

第1次産業：農業・林業・漁業

第2次産業：鉱業・建設業・製造業

第3次産業：小売・金融・不動産・運輸・サービス 等

■公共交通基盤

【道路】

本町の主な路線として、国道362号と国道473号、寸又峡への主要地方道川根寸又峡線、接岨峡への県道接岨峡線があります。国道473号と県道は大井川に沿って島田市へ向かって南に伸び、国道362号が東西を結んでいます。さらに、北部の静岡市井川へは静岡市道閑蔵線で繋がっています。なお、国道362号の元藤川から崎平と川根寸又峡線の奥泉から寸又峡までの区間は、すれ違いが困難な幅員の狭い箇所があり、行楽シーズンには通行の障害になったり、渋滞が発生したりするなど、地域交通への支障が生じています。そのため、バイパス等の道路改良整備が、早期解決が待ち望まれています。

近年、本町周辺では平成21年6月に富士山静岡空港が開港し、平成24年4月には新東名高速道路が開通するなど大規模なインフラ整備が進められました。これにより、県内はもとより、県外をはじめ海外からのアクセスも大幅に改善されています。

また、国道1号島田金谷バイパス4車線化の事業が決定し、慢性的な渋滞の緩和や移動時間の短縮が図られる予定です。

加えて、県では、島田金谷ICから島田金谷バイパス（国道1号）、富士山静岡空港、東名相良牧之原ICを経て御前崎港までを、地域高規格道路「金谷御前崎連絡道路」として整備が

進められています。これにより、各幹線道路と空港までのアクセスがさらに向上し、物流や人流の促進のほか、観光も含めた産業振興の面からも期待されます。

【鉄道】

鉄道は、JR 金谷駅と井川駅を結ぶ大井川鐵道があり、町内には 19 の駅が存在します。所要時間は、金谷駅から千頭駅までが約 70 分となっています。

また、本町の観光を支える資源として、新金谷駅から千頭駅間には S L が運行しており、千頭駅から井川駅間は南アルプスあぶとラインが運行しています。そのうちアプトいちしろ駅と長島ダム駅の間には、国内唯一のアプト式の区間があります。



【バス】

バス路線としては、千頭駅と寸又峡温泉の寸又峡温泉方面、千頭駅と閑蔵駅の閑蔵接岨方面を結ぶ大井川鐵道の路線バスや、町内各集落に連絡する町営バスが運行されています。

■祭り、イベント・温泉・特産品・レジャー施設

【祭り・イベント】

3月 ○春を呼ぶ天狗まつり（春分の日）

寸又峡温泉において毎年春分の日に開催され、山伏と天狗が春の幕開けを祝い、また 1 年間の恵みに感謝しながら温泉街を練り歩きます。メイン会場の広場では様々な伝統芸能が披露され、奥大井のご馳走が振る舞われます。

4月 ○徳山桜まつり（徳山のしだれ桜）

県立川根高校と町営サッカー場の間に、約 50 本の枝垂（しだれ）桜が植えられた並木道は、長さ 150m。つぼみの頃から満開の時期まで、地元の人々はもちろん、遠方からの花見客で賑わいます。川根高校郷土芸能部による赤石太鼓演奏、川根高校ブラスバンド演奏、手もみ茶実演、野点、ミニ S L 運転、空手演武、各種踊り、カラオケなどの催しが行われます。

○川根茶の日イベント

立春から七十七夜目に当たる 4 月 21 日を『川根茶の日』に制定し、川根茶に親しむ「川根茶の日イベント」をフォーレなかかわね茶茗館等を会場に開催します。煎れたての川根茶を無料で味わえる「川根茶接待」、飲み比べてお茶の銘柄を当てる「闘茶会体験」をはじめ、「川根茶手揉み体験」、「川根茶料理試食」、「茶餅つき体験」など、川根茶に関する体験コーナーが賑わいを見せます。



7月 ○南アルプス寸又峡山開き

奥大井の大自然を舞台に本格的な登山やトレッキングのシーズンを迎えます。

○平谷の流したい【町指定無形民俗文化財】

毎年 7 月 14 日の夕方、青竹と麦わらを束ねて大きな松明（たいまつ）を仕立てて川に流し、水難者の霊を弔う行事であり、平谷地区だけに残る風習です。

8月	<p>○徳山の盆踊【国指定重要無形民俗文化財】 徳山の浅間神社では、毎年8月15日の夜、鹿ん舞、ヒーヤイ踊り、狂言が行われます。農作物を荒らす獣を追い払い、五穀豊穡を願って始められた鹿ん舞と、引き続いて演じられる平安貴族の舞がルーツで、どことなく気品と優雅さのある盆踊りが行われます。</p> <p>○百八たい 毎年8月16日に下長尾地区大井川河川敷で行われる、盆の送り火です。 下長尾地区で昔から行われてきた儀式で、起源は川施餓鬼（かわせがき。水死人の霊を弔うための供養）であったとも伝えられています。</p>	
9月	<p>○田代神楽【県指定無形民俗文化財】 川根本町田代地区の大井神社に伝わる神楽です。言い伝えによると1189(文治5)年、成元成善（なりもとよりよし）、成近（なりちか）の兄弟がこの地に村を開き、大井川河畔の杉の根元に大井神社を建立し、成善が神職につき神楽を奉納したと伝えられています。</p> <p>○地名の平 案山子（かかし）コンテスト 2年に一度9月末から10月末日まで、地名地区の住民が、秋の豊作に感謝し、地名区民のふれ合いと助け合い、そして健康に良いとされる笑いを目的として開催しています。</p>	
10月	<p>○徳山神楽【県指定無形民俗文化財】 修祓・降神式から始まり、昇神式までの一貫した儀式が行われ、「神の舞」「倭舞（やまとまい）」など15の舞が舞われます。「清めの式」、「四座の舞」から始まり、囃子方（はやしかた）の調べにのって、先頭は天狗、巫女、舞子、神職と続き、列中には恵比須、大黒が道化した舞を舞いながら、見物人を笑わせています。</p> <p>○寸又峡温泉 和紙のあかり展 公募により全国からあかりアート作品を集め、「和紙を使ったあかり作品」を旅館のロビーや玄関先、歩道の両側に設置し、温泉街の夜を幽玄の空間として、優しいあかりで演出します。山々に囲まれた漆黒の闇の寸又峡に、和紙の持つ柔らかさ・美しさが風情をより引き立たせ、「癒し」「懐かしさ」を演出し、幻想的な雰囲気を寸又峡温泉にもたらしめています。</p> <p>○寸又峡もみじ祭 寸又峡温泉郷において、天狗・山伏の湯かけ行列、赤石太鼓の演奏、感謝の餅つきなどの催しが開かれます。</p>	
11月	<p>○産業文化祭 役場本庁舎周辺を会場に、地域住民の交流、ふれあいの場を提供することを目的にまちの魅力・資源の再発見、地域への愛着につながる町民誰もが参加できる活気あるイベントが開催されます。</p> <p>○奥大井ふるさとまつり 音戯の郷駐車場の特設会場で特産品の青空市が開催され、仮設のステージでは各種イベントが行われます。色鮮やかな紅葉を楽しみながら、多くの人出で賑わうお祭りです。</p>	
12月	<p>○寸又峡温泉感謝祭 寸又峡温泉では、昭和32年の温泉が湧出した記念の日を祝い、毎年、12月6日、7日の2日間、「温泉供養祭・感謝祭」を開催します。観音堂から天狗・山伏行列が出発、観光客も松明（たいまつ）を持って行列に参加し温泉街を練り歩きます。会場では鹿鍋・熊鍋・鴨鍋・猪鍋の4種類の鍋「きやんぼう鍋」が並び、蕎麦、おでん、やきいも、甘酒等が振舞われます。また、町営露天風呂をはじめ、多くの旅館では入浴が無料となります。</p>	
1月	<p>○梅津神楽【県指定無形民俗文化財】 梅地のこだま石神社と犬間の若宮神社に500年以上前から伝わる神楽で、神代の神話・岩戸神楽を模したものです。伊勢流に属し、雅びな和楽器の調べにのせて「三宝の舞・天王の舞」など、古式豊かな舞が奉納されます。</p> <p>○佐澤薬師のひよんどり 三津間地区内の佐澤薬師堂において、毎年1月7日から8日の朝にかけて例祭が行われます。また、60年に一度、十干十二支庚子の年には御開帳の特別大祭が執り行われます。「ひよんどり」は、村人たちによって、村中安全・家内無事を祈願して行われる踊りで、古代の「歌垣」「踏歌」の流れをくんでいるものといわれています。</p>	

【温泉】

寸又峡温泉	泉質は、硫化水素系・単純硫黄泉で、切り傷、慢性皮膚病、慢性婦人病、糖尿病などに良いと言われています。また、湯上がりの肌のつるつるすべすべとした感じが特徴で、その効用から「美女づくりの湯」と呼ばれています。なお、日本の名湯百選にも選定されています。
接岨峡温泉	大地のシワのような、深い溪谷に湧き出る接岨の湯は、ナトリウム-炭酸水素塩冷鉱泉で、胃腸疾患、リュウマチ、神経痛などに効能があります。また、炭酸を多く含んだ重曹泉（透明）で、皮膚の分泌を促進し、老廃物を取り除いてくれることから、「若返りの湯」とも呼ばれています。
白沢温泉	昭和62年ヘリコプターによる温泉空中探査により湧出した温泉です。泉質はナトリウム-炭酸水素鉱泉で、神経痛、慢性消火器病、冷え性、疲労回復など健康づくりには最適で、「リフレッシュの湯」と呼ばれています。
千頭温泉	平成9年に湧出した新しい温泉で、源泉は大井川鐵道の千頭駅に近くにあります。泉質は、ナトリウム-炭酸水素塩泉で、神経痛・筋肉痛、関節痛、冷え症などに効能があります。
梅高温泉	梅高温泉は、町民のみが利用できる「川根本町ふれあい温泉スタンド」として、健康増進、福祉の向上を目的に無料で開放されています。泉質は、ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩冷鉱泉です。

【特産品】

川根茶	大井川上流一帯は、江戸時代から知られる銘茶の産地です。茶栽培の伝統と大井川の清らかな水、川霧から立つ冷涼な気候に恵まれ、香気・滋味ともに申し分のない茶芽が育ちます。川根路には自園自製の手摘み茶園が多いのも特徴であり、全国茶品評会でも数多くの受賞を得ています。また、近年では紅茶やフレーバーティーとして活用されるなど、川根茶の魅力や可能性がますます広がっています。
茶羊かん	茶羊かんは、川根茶をはじめ厳選された原料や製法にこだわり、色・味・香りの三拍子が揃った絶妙な風味の川根路銘菓です。
しいたけ	ホダ木（原木）にしいたけ菌を接種してから約17ヶ月が経過し、頭をだします。川根本町のしいたけは、原木栽培が中心で高い香りと豊かな風味が特徴です。
自然薯（じねんじょ）	清らかな水と空気、豊かな大地で育った風味・ネバリが特徴で栄養満点の自然薯です。
わさび	清流で育った新鮮なわさびは、ピリッとした辛味もまた格別です。
山菜・川魚	春先のわらび、ゼンマイ、たけのこ、夏季のあまご、鮎など季節の幸が楽しめます。
柚子	町内の生産者で組織する組合が中心となって、ゆず酢やゆずジュース、ゆず味噌など加工品としても販売しています。
八つ頭	八つ頭は里芋の一種で、本町ではお雑煮に入れたり、茎は干して芋がらとして煮て食べたりします。

【公共の観光施設・レジャー施設】

資料館やまびこ	南アルプスから湧き出る水をあわせて蛇行する大井川流域の地勢と、緑豊かな森林に育まれる生物界、そして、その自然との調和・共存をはかりながら営んできた山峡（やまかい）の生活と文化に焦点をあてた施設です。山間地という立地条件から「山の資料館」として、「山と人間」・「過去と現代」の対話を通して環境保全やエコロジー精神を培います。
長島ダムふれあい館	長島ダムは、多目的ダムとして洪水調節、流水の機能の維持、かんがい、水道用水・工業用水の供給を目的としています。また、「地域に開かれたダム」として、ダム堤体部の一般開放や貯水池周辺の施設設置を許可するなど、地域の活性化の為に環境整備が行われています。

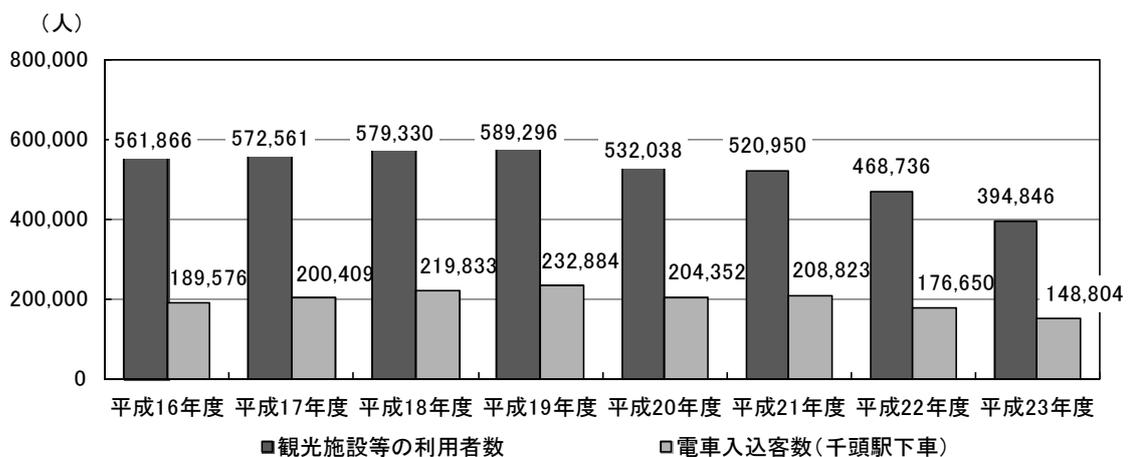
寸又峡温泉露天風呂	寸又峡の温泉街の一番奥にある露天風呂です。湯船から眺められる美しい沢の景色も好評で、ゆっくり「美女づくりの湯」が堪能できます。
南アルプス山岳図書館	平成 21 年 3 月、寸又峡にオープン。南アルプス南部の山・川・民俗等の図書や関連資料の約 7,000 部の蔵書があります。寸又峡を訪れる登山者や旅行者に關係情報の収集のために活用されてもいます。
もりのいずみ	清流のせせらぎと野鳥のさえずりが聞こえる森の中にある温泉スポット。木漏れ日あふれる露天風呂と陶器風呂、かぶり湯、うたせ湯、寝湯・気泡湯など 9 種類のお風呂が楽しめ、1 日たっぷり温泉三昧で過ごせます。
もりのコテージ	奥大井の自然に抱かれた静かな宿泊施設で、ほんのりと木の香りが漂う、ログハウス風のコテージがあります。温泉施設「もりのいずみ」と隣接し、自然と温泉を満喫できます。
奥大井 音戯の郷	音をテーマにした体験ミュージアムです。野鳥のさえずりなど自然の中にある様々な音を聴診器で聴くコーナーや音のシャワーが注ぐドームなど、誰もが自由に音に触れることで、遊び心や感性が呼び覚まされます。
フォーレなかかわね茶茗館	まちの暮らしや産業、自然、産物などを、川根茶をキーワードに紹介するコミュニティエリアです。日本庭園の見える茶室では、手作りのお菓子をお茶うけに、美味しい川根茶を味わうことができます。また、1 階「シルエットギャラリー」には、日本を代表する影絵作家藤城清治氏による川根本町の情景、春夏秋冬を題材に描いた影絵が展示されています。
ウッドハウスおろくぼ	豊かな木の質感あふれる館内には、ラウンジ、レストランなどの一般利用者のための休憩施設や宿泊施設があります。敷地内には動植物や山のくらし等を紹介する「緑の伝習館」があり、研修室も利用ができます。
なかかわね三ツ星天文台	平成 6 年に環境省が主催する全国星空継続観察の結果、川根本町（旧中川根）が、「澄んだ星空 全国第 2 位」になったことを受けて、建設されたもので、満天の星空が望め、四季折々の星を観察できます。天文愛好家等で組織された MAC（マック）のメンバーが季節、時間にあわせて様々な天体について分かりやすく説明してくれます。
アプトいちしろキャンプ場	南アルプスの麓の雄大な自然の中にあるキャンプ場で、快適な芝サイトから、溪谷に行く南アルプスあぶとラインと大井川を間近に眺められます。旧井川線の薄暗いトンネルに行くウォーキングや水遊びが出来るなど、見所が多い場所です。
八木キャンプ場	大井川の河畔にある老舗のキャンプ場です。大井川鐵道千頭駅から車で 10 分ほどの距離で、アウトドアの初心者が安心して利用できます。周辺には温泉施設「もりのいずみ」やテニスコート、ちびっ子広場、つり橋があり、キャンプ以外にも楽しむことができます。
池の谷ファミリーキャンプ場	寸又川河畔の雑木林の中にある雰囲気の良いキャンプ場です。オートキャンプ 80 台、フリーテントサイト 100 張可能で、バンガロー 7 棟のほか、キャンプファイヤーのスペース等の施設を完備した本格的なキャンプ場です。
三ツ星オートキャンプ場	大井川支流の長尾川沿いにあるファミリー向けのオートキャンプ場です。さまざまな体験イベントが開催されるとともに、有料ピザ窯、へっつい（かまど）の貸し出しも行っています。
不動の滝自然広場 オートキャンプ場	緑に囲まれた不動の滝自然公園の中にあるオートキャンプ場です。森の中の小さなキャンプ場で水の流れる流れに耳を傾けながらキャンプを楽しめます。沢に沿って 10 分ほどすすめば、落差 45m の不動の滝が水しぶきをあげています。
くのわき親水公園キャンプ場	大井川河畔の敷地面積 4 万平方メートルで、700 人の収容が可能な明るい雰囲気のある広々としたキャンプ場です。バーベキュー棟や売店など施設も整っており、森林浴、ハイキング、川遊び、グラウンドゴルフもできます。また、近くには観光客にも人気の「塩郷の吊橋」もあり、対岸を走る S L 列車を一望できる人気のスポットです。
グラウンドゴルフ場の誘客への活用	川根本町商工会の発案で地域の愛好家が管理するグラウンドゴルフ場と、ホテルや旅館、食堂が連携した誘客事業を行っています。グラウンドゴルフをプレーした後、温泉旅館に宿泊できるパックプランと、食事付きの日帰りプランがあります。

3. 本町を取り巻く観光の状況

■観光施設等の利用者の推移

観光施設等の利用者数の推移は平成16年度から21年度までは、年間50万人以上で推移していましたが、平成22年度に468,736人、平成23年度では394,846人と40万人を下回っています。一方で、電車入込客数も平成19年度の232,884人をピークに年々減少していて、平成23年度には148,804人と、初めて15万人を割り込みました。

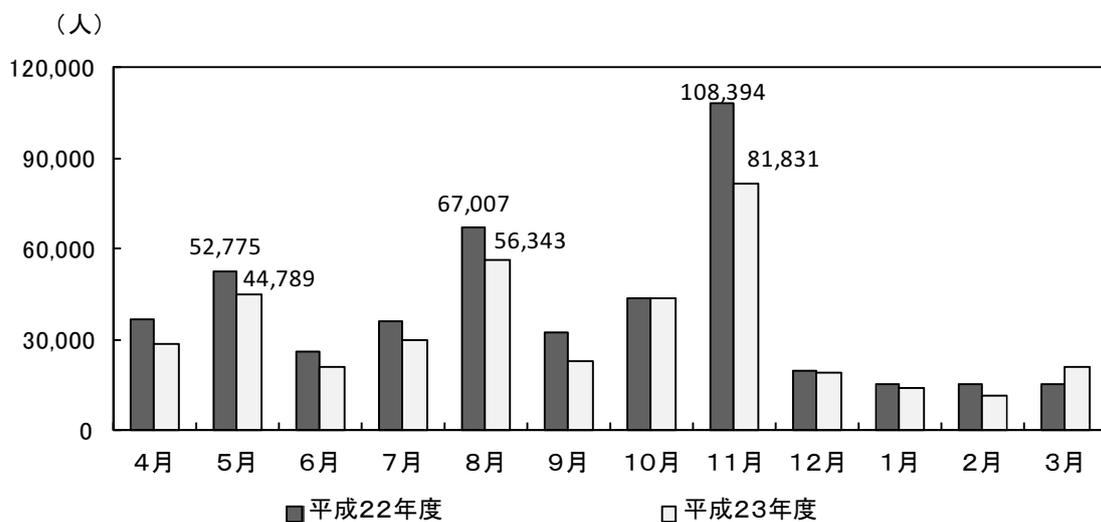
なお、平成23年度は前年対比15%以上の落ち込みとなっていますが、これは、東日本大震災による影響が考えられます。平成24年度においては、幾分持ち直していますが、更なる誘客を図っていく必要があります。



出典：商工観光課

■月別観光施設等の利用者数の推移

月別観光施設等の利用者は、平成22年度、23年度ともに、5月のゴールデンウィークと8月の夏休みの休暇時期に増加します。また、年間を通して最も利用者が多いのは、紅葉が見頃となる11月で、平成23年度には8万人を超えています。一方で、12月から3月までの期間には利用者数が低迷する傾向にあります。

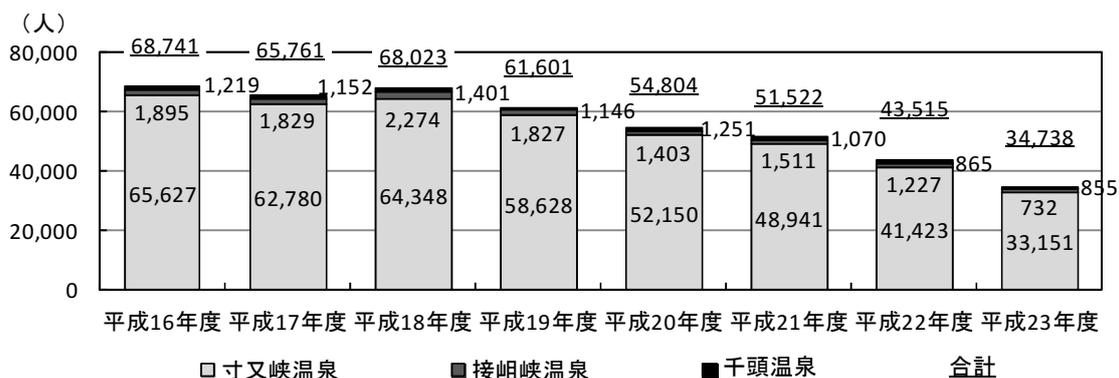


出典：平成22、23年度観光入込調査

■宿泊客数の推移（入湯税申告による統計）

町内の宿泊客は、寸又峡温泉の宿泊客が全体の宿泊の95%以上を占めています。平成16年度から19年度までは、年間の利用者が6万人以上となっていました。平成20年度以降年々減少し、平成23年度には34,738人と大きく落ち込んでいます。この数値は、5年前（平成18年度）の半分程となっています。

顧客単価の高い宿泊客を増加させることは、地域経済への波及効果や地域活性化への影響も大きいことから、宿泊客の増加を図る対応策が求められています。



出典：商工観光課

■主要施設等の利用者数の推移

主要施設等の利用者数は、「寸又峡溪谷」が最も多く、平成23年度では60,558人となっています。ただし、「寸又峡露天風呂」とともに平成19年度と比べて4割程減少するなど寸又峡全体で利用者数が落ち込んでいることが分かります。また、「音戯の郷」「長島ダムふれあい館」及び一部のキャンプ場でも利用者が減少しています。

しかし、その一方で「くのわきキャンプ場」や「三ツ星キャンプ場」のように利用者を増やしている施設もあります。さらにキャンプ場全体でも、20,251人から21,274人に増えており、アウトドアブームによる影響と思われる。

	寸又峡 溪谷	寸又峡 露天風呂	接岨峡 温泉会館	もりのいずみ	音戯の郷	長島ダム ふれあい館	茶茗館
平成19年度	102,029	17,362	24,008	39,778	32,008	25,899	25,690
平成20年度	94,179	17,223	22,165	36,672	30,020	23,414	23,590
平成21年度	87,831	15,425	23,591	33,892	25,018	22,954	22,920
平成22年度	81,155	13,493	24,423	36,597	21,634	20,229	21,176
平成23年度	60,558	10,745	20,381	32,370	18,813	18,674	23,014

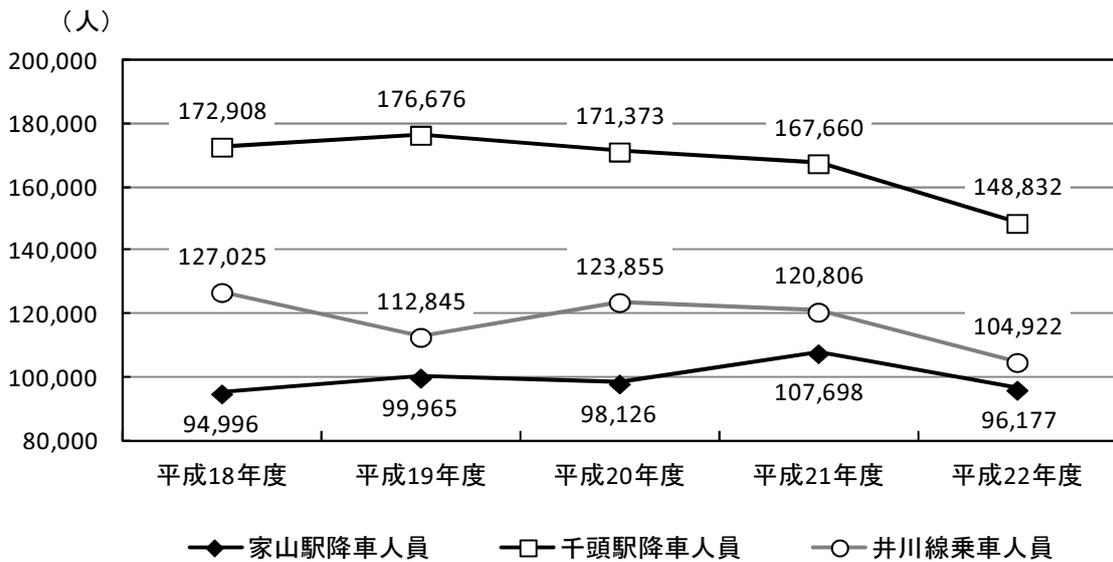
	くのわき キャンプ場	三ツ星 キャンプ場	自然 キャンプ村	池の谷 キャンプ場	八木 キャンプ場	アプトいしろ キャンプ場	もりの コテージ	ウッドハウス おろくぼ
平成19年度	12,253	814	3,200	1,294	2,452	238	3,033	1,178
平成20年度	11,385	571	2,369	980	2,385	255	3,528	963
平成21年度	13,086	1,286	2,317	2,298	2,442	691	3,256	1,281
平成22年度	14,148	3,798	1,608	1,608	1,941	515	2,617	1,227
平成23年度	12,895	3,754	1,040	1,087	1,676	822	3,004	1,005

出典：商工観光課

■大井川鐵道の運輸状況の推移

大井川鐵道の利用者は、本線及び井川線の合計で平成18年度の乗車人員929,416人から平成22年度には777,604人と、16.3%の減少となっています。なかでも千頭駅の本線の下車人員と井川線の乗車人員の減少が目立っています。一方で、家山駅下車人員は、横ばいで推移しており、地名から千頭までの川根本町区間において乗車人員の減少が進んでいる状況です。

なお、平成25年度には、町内の鉄道沿線や駅周辺を中心とした地域の振興や活性化を図る「川根本町レールパーク構想」の策定が予定されています。この構想には、鉄道利用者数の回復についても期待が持たれるところです。



出典：統計センター、静岡県統計年鑑・鉄道運輸状況

4. 各種調査等からみた川根本町の課題

■団体・企業等ヒアリング

①団体・企業等ヒアリングの概要

【実施概要】

対象者：川根本町内で観光に係わる活動を行っている団体・企業等

時 期：平成 24 年 9 月上旬～下旬

【目的】

川根本町の観光に日頃から携わるなかでの現状や課題、観光に対するご意見や今後の方向性・ご意向等を把握することを目的としています。

②団体・企業等ヒアリングの結果

各種関係団体等から出た主な課題や方向性は以下の通りです。

観光の課題	求められる対策や方向性
食事処が充実していない	地元ならではの食材を活かした料理の発掘や、千頭駅周辺の食事施設の整備が必要とされています。
年間を通じた体験型の観光地がない	町内に豊富にある自然を活かし、トレッキングコースやフィールドアスレチックの整備、接岨湖のカヌーや大井川流域での川遊びなど、体験型の観光地整備や、グリーン・ツーリズム ^(*) など、宿泊も伴った環境づくりが求められています。
町内の回遊ルートがない	点在する観光資源を有機的につなげるための回遊コースを整備し、観光客の回遊性を高め、観光地として活性化を図っていく必要があります。
観光地としての“おもてなしの心”が欠けている	観光地として、自店の繁栄につながる努力や“おもてなしの心”の育成が必要となっています。「観光振興なくして川根本町の発展なし」という覚悟のもと、お客様をもてなすための環境づくりが求められています。
宣伝活動・PR不足している	町民一人ひとりが、まちへの愛着をもち、観光客への観光名所などの情報提供に取り組むことや、行政などをはじめとし、観光地として町外や県外への宣伝活動に取り組むことが求められています。
千頭駅周辺の観光地整備が不十分である	千頭駅は川根本町の主要観光資源でもあるSLの発着駅であり、各地に点在する観光地を結ぶ拠点になります。「音戯の郷」を含め、休憩スペースや飲食スペースの設置など、駅前周辺施設の整備により、観光客の滞在時間の延伸を図っていくことが必要です。

^(*) グリーン・ツーリズム＝農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

■ワークショップ

①ワークショップの概要

【実施概要】

参加者：町内の日頃から観光に携わっている方々や、一般公募

人数：第1回（34名程度）、第2回～3回（15名程度）

時期：第1回 9月20日、第2回 10月11日（木）、第3回 10月25日（木）

【目的】

川根本町のこれからの観光について考えるため、まちの魅力を発掘し、商品開発やブランド強化、観光ツアーを開発・展開していくため、それぞれのテーマに分かれ、協議を行いながら理解・認識を共有することを目的としています。

②ワークショップの結果

第1回 模造紙に書きこまれた「川根本町の魅力」のキーワードは、合計363項目でした。意見をカテゴリ別に分類すると、以下のようになります。

区分	意見数	区分	意見数
①自然環境に関するもの	110	④観光名所に関するもの	64
・立地・気候	9	・鉄道	13
・自然の豊かさ	17	・温泉	17
・川	16	・つり橋・橋	19
・山	25	・ダム	7
・動物・植物	18	・その他	8
・景観	20	⑤スポーツに関するもの	35
・その他	5	⑥町民生活に関するもの	36
②歴史・文化に関するもの	33	⑦コミュニティ等に関するもの	44
③食に関するもの	26	⑧その他	15

意見が多いのは、「①自然環境に関するもの」「④観光名所に関するもの」「⑦コミュニティ等に関するもの」の順で、自然環境でも特に「山」「景観」に関する意見が多く、南アルプス南部の山麓と前衛の山々が織り成す四季折々の美しい景観がまちの強みとして認識されている事がわかります。

一方で、「③食に関するもの」が一番少なく、本町の観光における課題として、特産品や飲食店などの充実となっています。本町には特産品として「川根茶」があり、農林水産大臣賞を受賞する程の銘茶ですが、全国的な知名度はそれほど高くはありません。今後、更なるPR活動などが求められています。

県外や他市町からのアクセスが良くなったことを受け、観光客の集客を図るための観光地整備や、周遊ルートの設定などが必要とされています。

観光資源・名所（ポイント）をつなぐコースやツアーを組み、各地に点在している観光資源を“つなげる仕掛けづくり”が重要となっています。



第3章

計画の基本的な考え方



1. 将来像

観光はもとより、中国の古典「易経」の『国の光を観るは、もつて王たるの賓によろし観国之光、利用賓于王』を語源としており、「国家の治、光華盛美（国の光）を学び、観るときは、その国において王の賓客として仕え、智力をつくし、王を助け、恵みを天下に施すようにすべき」と訳すことができます。すなわち、国の繁栄や輝きを観ることであり、観光は“まちの光り”を観ることを意味します。また、「観る」には「示す」ことも意味として含まれており、“そのまちの良きところ、すばらしい人物に触れ合うこと”にもつながります。

本町が有する光として、かねてから生活の糧として地域経済を支えてきた茶業や林業、山々や溪谷が織りなす雄大な自然景観、良質な泉質を誇る各所の温泉、汽笛を響き渡らせ走るSL、脈々と受け継がれてきた伝統芸能や生活文化、そして、まちの担い手である住民などが挙げられ、これら優良な観光資源と地域住民を活かした観光のまちづくりを図っていきます。ついでに、本町の観光の方向性を描く計画として、目指すべき姿を以下に掲げます。

雄大な自然が癒す ふるさとのまち 川根本町 ～新緑・紅葉・大井川、お茶と温泉・SLのまち～

中国の古典「えききょう易経」：中国の重要古典の名数的呼称「四書五経」の五経の一経に位置づけられる。五経には、「易経」「書経」「詩経」「礼記」「春秋」がある。

2. 目標値

本計画では、総合計画で掲げる数値目標を加味しつつ、本町が有する観光産業の活性化や振興施策により、計画の最終年度である平成34年度における目標値を以下のとおり定めます。

	現状値 (平成23年度)	中間目標〔総合計画参照〕 (平成28年度)	最終目標 (平成34年度)
観光客数	39.4万人/年	50.0万人/年	57.5万人/年
一日当りの観光客数(参考)	1,080人/日	1,370人/日	1,575人/日
宿泊客数	3.4万人/年	5.7万人/年	6.6万人/年

※観光客数は統計要覧「年度別町内観光施設等利用客・宿泊客の推移」を参照

宿泊客数は「入湯税申告」の統計を参照

中間目標は総合計画との整合より平成28年度で設定

最終目標は、平成16年～19年の数値を参考に設定

交流人口は、一日あたりの観光客数として設定

3. 基本方針

本町の観光振興において、地域の魅力を高め、県内はもちろんのこと県外からの観光客数の増加やリピーターの確保、滞在時間・期間の延伸を図ることは、名実ともに「観光交流立町」を目指す上で大変重要なことです。観光の将来像を実現するため本計画の基本方針を以下に示します。

川根本町の魅力を高める観光ブランド力の強化

魅せるまち・川根本町

おもてなす人と心を育む

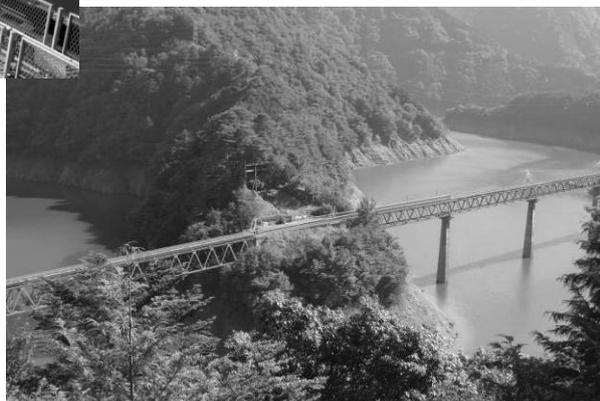
喜ばれるまち・川根本町

魅力を伝え、広めるための戦略的なプロモーション

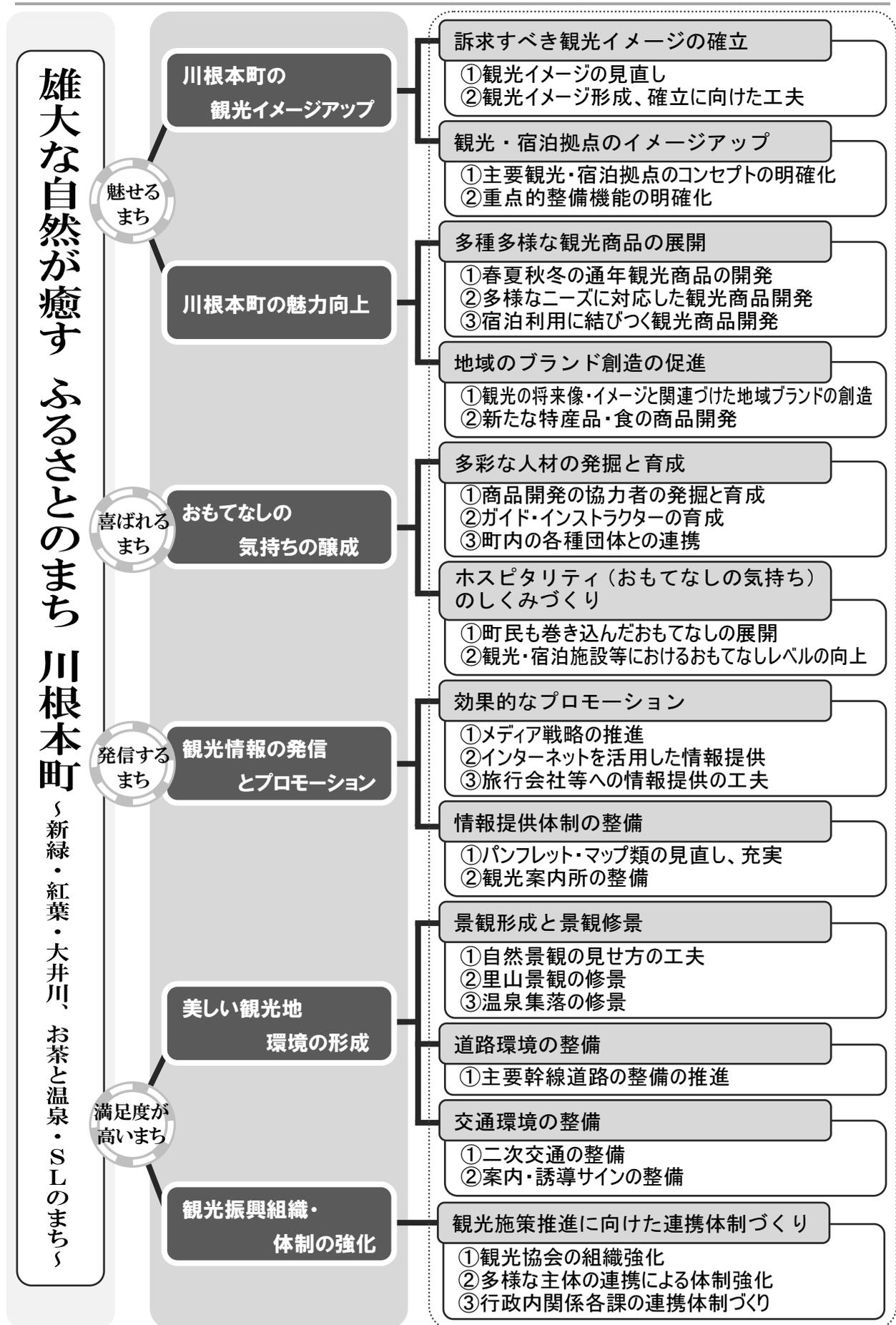
発信するまち・川根本町

観光資源や受入れ基盤の整備

満足度が高いまち・川根本町



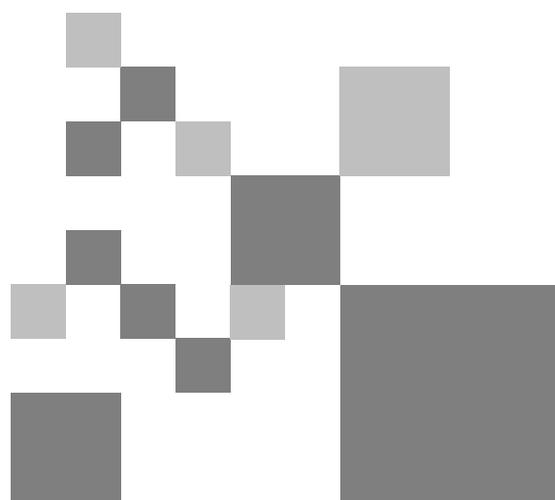
4. 施策体系図





第4章

重点的に取り組む施策



1. 川根本町として訴求すべき観光イメージの確立

本町には、自然や温泉、鉄道などの多種多様な観光資源があります。SLや駅舎などはメディアに取り上げられるなどして、知名度がありますが、主要宿泊地でもある寸又峡は、最盛期に比べて宿泊客数は減少し、若い世代を中心に認知度が低い状況にあります。

全国各地に観光地が存在するなか、他のまちと差別化し、まちの観光資源を有効活用した唯一無二の観光を明確に打ち出していくことが必要です。

そのため、まちの魅力を想像させるイメージを確立し、観光地として町外並びに県外へ、広く知られるまちを目指します。

2. 観光・宿泊拠点のイメージアップ

千頭駅周辺や寸又峡、接岨峡は、かつて多くの観光客で賑わいをみせるなど、本町の観光振興において主要な拠点です。まちの今後の観光振興を考える上で、これらの3つの拠点については、交通アクセスの改善について引き続き、国や県に要望していくとともに、優先的に整備を推進し、観光・宿泊拠点としてのイメージアップを図っていくことが必要です。

そのため、各拠点における特徴や環境を考慮し、観光地としての性格づけや観光振興の方向性を明確にし、観光・宿泊拠点として整備すべき機能を明らかにしていきます。

3. 多様なニーズに対応した、テーマ性のある観光商品の開発と通年観光利用の促進

本町の観光の入込客数は、時期により大きく異なっており、年間を通じて安定した観光客の確保を図っていくことが求められています。特に冬の時期において観光が低迷しやすく、観光商品の開発に取り組むことが必要です。

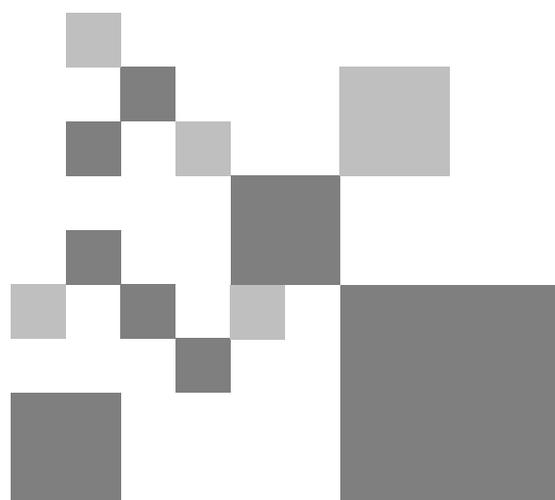
加えて近年においては、ライフスタイルの変化により、観光におけるニーズが多様化しており、様々な観光商品が求められています。

そのため、本町の多種多様な観光資源を有効に活用し、通年における本町の観光商品の開発を進めていきます。



第5章

具体的な施策の展開



1. 訴求すべき観光イメージの確立

推進施策	目的
①観光イメージの見直し	本町の観光資源を見つめ直し、打ち出すべき効果的な観光のイメージづくりを行います。
想定事業・取り組み例	
観光資源の発掘	町民による「まち歩き」などを実施し、本町の新たな観光資源や既存の資源の魅力の発掘を行い、訴求すべき方向性を見出す。
新イメージ・コンセプトの考案	本町観光としての既存イメージを打破し、新たな客層やニューカマーを取り込むため、新たなイメージ・コンセプトの考案に取り組む。

推進施策	目的
②観光イメージ形成、確立に向けた工夫	観光地として他市町との差別化を図り、観光資源の特徴を活かしたイメージを確立していきます。
想定事業・取り組み例	
「南アルプス世界自然遺産登録推進協議会」による連携	南アルプスに関係する3県10市町村により、南アルプスの「世界自然遺産登録」や「ユネスコエコパーク ^(*) 登録」を目指し、豊かな自然環境を有するまちとしてのイメージ形成を図る。
観光地イメージ確立	夢の吊橋が「死ぬまでに渡りたい世界の徒歩吊橋10」に選ばれるなど、町内には観光資源として高いポテンシャルを秘めたものも多数存在することから、それぞれの特徴を活かした独自の観光地イメージを確立する。
観光キャッチフレーズ・ロゴの作成	本町の観光のPR活動の一環として、まちのイメージにあったキャッチフレーズやロゴなどを作成する。
クリエイター等を活用したイメージアップ	著名なクリエイターなどとの連携により、本町の観光資源の魅力を引き出す写真やイラストを使ったポスターの作成を行い、首都圏、中部圏などへのイメージ形成を図る。

^(*) ユネスコエコパーク＝ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が、人間と自然との共生を目指すため、1971年に発足させた「人間と生物圏計画（Man and the Biosphere Reserve；MAB（マブ）」の中心となる事業。地域の自然と文化を守りながら地域社会の発展を目指す考え方。

推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①観光イメージの見直し	●	●		●	検討・調整・実施		
②観光イメージ形成、確立に向けた工夫	●		●	●	検討・調整・実施		



2. 観光・宿泊拠点のイメージアップ

推進施策	目的
①主要観光・宿泊拠点のコンセプトの明確化	町内のエリア毎に魅力的でかつ分かりやすいコンセプトを打ち出すことにより、誰もがイメージしやすく、親しみやすい観光地づくりを目指します。
想定事業・取り組み例	
千頭駅周辺のコンセプトの確立	大井川鐵道の本線と南アルプスあぶとラインの乗り入れる千頭駅を主要な交通拠点として位置づけ、千頭駅とその周辺域の活性化を図るため「レールパーク構想」の策定によりコンセプトを確立させる。
温泉毎のコンセプトの確立	既に寸又峡や接岨峡は、それぞれ「美女づくり」、「若返り」などの親しみ易いネーミングを掲げているが、千頭温泉や白沢温泉にも適当なネーミング設ける等コンセプトの差別化を図る。

推進施策	目的
②重点的整備機能の明確化	上記①のコンセプトや観光・宿泊拠点に合わせ、必要な機能の整備を明らかにし、事業の展開を図ります。
想定事業・取り組み例	
寸又峡露天風呂の建設	老朽化した寸又峡露天風呂を新たに建設して、日帰り温泉としての機能強化と観光誘客を図る。
「おもてなしの店づくり整備事業」の実施	商業の活性化、町並み形成によるイメージアップを図るため、共同により店舗を新築又は増改築、備品や設備の新設、更新を行なう商店等に補助金を交付する。
電気自動車（EV）等の充電インフラ整備	環境に配慮した観光地づくりの一環として電気自動車（EV）等の充電インフラの整備を行う。
観光拠点のバリアフリー化	段差の解消やスロープの設置など、観光拠点におけるバリアフリー化を行う。

推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①主要観光・宿泊拠点のコンセプトの明確化		●	●	●	検討・調整・実施		
②重点的整備機能の明確化			●	●	検討・調整	実施	



3. 多種多様な観光商品の展開

推進施策	目的
①春夏秋冬の通年観光商品の開発	年間を通じて安定した観光客の確保を図るため、季節性や観光資源の特性を考慮した商品開発を行います。
想定事業・取り組み例	
徳山の桜まつり等の開催の支援	蕎麦粒山や大札山周辺のアカヤシオやシロヤシオ、徳山地区のソメイヨシノや枝垂桜など、春に開花時期を迎える町内の花の名所において開催される各種イベントを支援し、春のシーズンに誘客を図る。
大井川流域を活用した体験型観光等の工夫	カヌーなど、大井川流域を活用した川遊びや体験型、自然探訪型の観光商品を開発し、夏休みの期間や春・秋など家族やグループなどで楽しむことのできる商品の提供に努める。
紅葉シーズンにおける集客の確保	接岨峡や寸又峡をはじめ、紅葉の名所と町内を走るSLやアルプス式鉄道を活用した紅葉絡みの観光商品を開発し、誘客を図る。

推進施策	目的
②多様なニーズに対応した観光商品開発	個人や小グループなどの観光客が増えるなど、ライフスタイルの多様化に対応するため、着地型観光を含めた多種多様な観光商品の開発を行います。
想定事業・取り組み例	
登山客向けの観光商品の開発	登山客向けに、登山コースと温泉を組み合わせたプランの考案や送迎サービスを含めた観光商品の開発を行う。
修学旅行客や教育旅行向けの観光商品の開発	体験や学習が主流の修学旅行や教育旅行をターゲットに、自然環境を活かした観光商品の開発を行う。
モニターツアーの開催	各種モニターツアーを開催し、観光客のニーズを把握し、まちに適した観光商品の開発を行う。
エコツーリズム団体の活動推進	川根本町エコツーリズムネットワークを代表とする各種のツーリズムグループの地域資源を活かした観光誘客の取り組みを推進する。

推進施策	目的
③宿泊利用に結びつく観光商品開発	日帰りでの観光客が多いため、数日間の滞在が可能な観光商品の開発を行います。
想定事業・取り組み例	
宿泊プラン、滞在観光利用促進プランの開発	宿泊利用を前提に、食や様々な体験観光をセットにした多様な宿泊・滞在プランを開発する。
農家民泊の推進	農業体験やその他の各種の体験プログラムを通じて、地域住民との交流や本町の自然を満喫できる機会を提供する。

推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①春夏秋冬の通年観光商品の開発	●	●	●	●	検討・調整・実施 		
②多様なニーズに対応した観光商品開発		●	●	●	検討・調整・実施 		
③宿泊利用に結びつく観光商品開発	●	●	●	●	検討・調整・実施 		

4. 地域のブランド創造の促進

推進施策	目的
①観光の将来像・イメージと関連づけた地域ブランドの創造	観光の将来像や訴求イメージと関連づけた「地域ブランド」の創造へ向けて、地元企業をはじめ、観光に係わる事業者と協力し、観光商品や特産品のイメージアップとブランド力を高めていきます。
想定事業・取り組み例	
川根茶ブランドによるイメージアップ	たびたび農林水産大臣賞を受賞する程の銘茶「川根茶」を生産するまちとして、全国的なPRや洗練されたパッケージ・広告づくりなどにより、ブランドイメージを高める。
茶葉生産工場の見学受け入れと、ツアー商品の開発	主要産業である茶の生産工程を見学・体験することを通して、川根茶の質の高さや生産者のこだわりなどを伝え、消費者の理解を促進するべく、生産工場での見学受け入れや「見学ツアー」の開発に取り組む。

推進施策	目的
②新たな特産品・食の商品開発	この土地ならではの食文化を味わい、楽しむことができるよう、観光客の嗜好に合わせた魅力ある特産品や食の商品開発を図ります。
想定事業・取り組み例	
地場特産物を活かした料理の開発	茶や山菜、椎茸のほか、イノシシやシカなどのジビエ料理の考案を行い、食事処や宿泊施設で本町ならではの食を味わうことができるようにする。
特産品・ブランド認定の実施	本町の特産品としてブランド認定し、町としてPR活動や販売促進を支援する。

推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①観光の将来像・イメージと関連づけた地域ブランドの創造		●	●	●	検討・調整	実施	→
②新たな特産品・食の商品開発	●		●	●	検討・調整	実施	→



5. 多彩な人材の発掘と育成

推進施策	目的
①商品開発の協力者の発掘と育成	新たなイベントやプログラムを開発・提案していくための協力者を発掘及び育成し、多様な事業の展開につなげていきます。
想定事業・取り組み例	
観光案内人養成講座の開設	本町の観光資源に関する知識や見識などを身につけた、町公認の案内人を育てるための養成講座を開設する。
「川根本町売れるものづくり事業」の実施	町内の中小事業者等が行う新商品の開発や新ビジネス展開に係る事業、販路開拓に係る事業に対して補助金を交付して支援する。

推進施策	目的
②ガイド・インストラクターの育成	本町の自然や生活文化の魅力を伝え、まちの案内を行うガイドの育成や、多様な体験型観光を指導するインストラクターの育成を行います。
想定事業・取り組み例	
エコツーリズム推進事業の実施	町内のエコツーリズム推進のためのキーパーソンとなるエコツーリズムコーディネーターの活動を支援し、エコツーリズムによる地域活性化につなげる。
森の案内人養成講座によるガイドの養成	まちづくり観光協会が開催する森林療法ガイドの養成講座を「森の案内人養成講座」として指定し、ガイドの養成を行う。

推進施策	目的
③町内の各種団体との連携	観光に携わる各種地域団体やNPOなどと連携・協力し、観光によるまちづくりのための人材育成及び体制の充実を図ります。
想定事業・取り組み例	
共同での事業実施	まちづくり観光協会や寸又峡美女づくりの湯観光事業協同組合、川根本町エコツーリズムネットワークなどとの相互協力により、観光誘客を図るための事業を推進するとともに、人材育成体制の充実を図る。

推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①商品開発の協力者の発掘と育成	●		●	●	検討・調整・実施		
②ガイド・インストラクターの育成	●	●		●	検討・調整・実施		
③町内の各種団体との連携	●	●		●	検討・調整・実施		

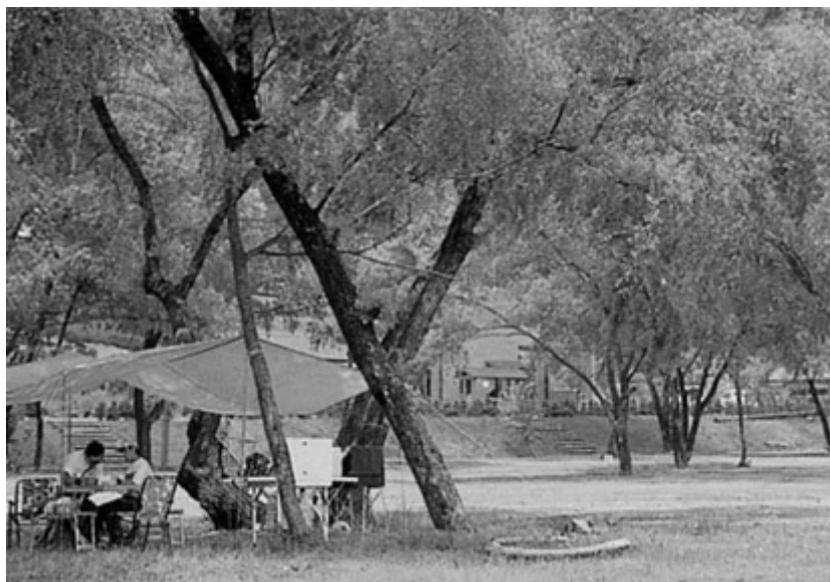


6. ホスピタリティ(おもてなしの気持ち)のしくみづくり

推進施策	目的
①町民も巻き込んだおもてなしの展開	観光関係者はもとより、それ以外の地域住民も観光振興の一役を担っていることを意識づけるとともに、町民との協働による観光の推進を図ります。
想定事業・取り組み例	
住民による自主的な観光イベントの支援	奥大井ふるさと祭りや寸又峡温泉美女づくり観光事業共同組合等住民が主体となって主催する各種のイベントを支援する。
観光ガイド・インストラクター養成講座への参画	観光ガイドや各種ツーリズム・インストラクターなどの養成講座等の開催に関する情報を町内に発信し、町民の参加を促す。
まち歩きへの参加	身近な観光資源の良さを認識し、町民の観光への関心を高める。

推進施策	目的
②観光・宿泊施設等におけるおもてなしレベルの向上	観光客から喜ばれ、「また来たい」「またこの人に会いたい」と思わせるおもてなしが行えるよう、観光・宿泊施設等における意識の醸成や知識・スキルの習得などを進めます。
想定事業・取り組み例	
宿泊施設での呈茶	「おもてなしの茶箱」の作成や呈茶教室やお茶の入れ方講習会の開催を経て、美味しいお茶の入れ方を学び、宿泊施設での「川根茶」の提供を行う。
ホスピタリティ講習の実施	質の高い観光客へのおもてなしなどを学ぶための講習会・セミナーを開催し、おもてなしレベルの向上を図る。

推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①町民も巻き込んだおもてなしの展開	●			●	検討・調整・実施 →		
②観光・宿泊施設等におけるおもてなしレベルの向上		●	●	●	検討・調整・実施 →		



7. 効果的なプロモーション

推進施策	目的
①メディア戦略の推進	テレビ局やラジオ局、新聞社や出版社などに向けて、本町の観光の強みをベースにした様々な魅力づくり、商品開発の取り組みなどについて情報発信を行い、広く宣伝します。
想定事業・取り組み例	
テレビ局等とのタイアップによる観光PR	ドラマや映画、旅番組などの撮影にも利用される本町の観光資源を有効に活用し、観光キャンペーンやイベント、PR活動など、テレビ局やラジオ局等とのタイアップにより紹介する。
フィルムコミッションと連携した誘致	フィルムコミッション ^(*) との連携により、本町の自然景観や町並みなどの映像を発信し、観光振興やロケ支援活動に取り組む。
マスメディアに向けた観光情報・観光魅力づくり・商品開発情報のリリース	テレビ局や新聞社等に向けて、本町の様々な観光情報や観光魅力づくり・商品開発等に関する取り組みについてリリースし、取材や放映・報道紹介を促進する。

(*) フィルムコミッション＝映画等の撮影場所誘致や撮影支援をする公的機関。

推進施策	目的
②インターネットを活用した情報提供	インターネットの普及とともに携帯端末の利用も増加し、場所や時間を問わず、様々な場面での情報取得が容易になったことを受け、これらの環境を活かした効果的な情報の発信を行います。
想定事業・取り組み例	
町のHPでの情報発信	町やまちづくり観光協会、その他関連団体との連携により、それぞれのHPで一元化した各種観光情報の発信を行う。
「見頃情報」や登山情報等の発信	桜やアカヤシオ、シロヤシオの開花情報や紅葉情報、さらに登山に関する情報の収集や発信をリアルタイムで効果的に行う。
AR技術 ^(*) などを活用した情報発信	携帯端末によるAR技術などを使った専用のアプリ ^(*) を活用しながら、視覚的に楽しめるとともに実用的な情報の発信を行う。

(*) AR技術＝目の前に見える現実の世界の上に、コンピュータ内に存在する、関連した情報を重ね合わせて表示する技術。

(*) アプリ＝アプリケーション。スマートフォンにインストールして使用するソフトウェア。

推進施策	目的
③旅行会社等への情報提供の工夫	個人・団体に係わらず観光誘客を行うため、旅行会社等への情報提供、販売促進を行います。
想定事業・取り組み例	
旅行会社企画ツアーへの協力とモニターツアー等の実施	旅行会社が企画・実施する本町へのツアーに対して側面からの支援、協力を行なうとともに、島田市との連携によるモニターツアーやファミトリップ ^(*) を行なう。
新たな魅力に関する観光情報の提供	本町ならではの新たな体験観光の魅力や「食」の魅力を中心に、旅行会社等へ情報提供をする。その際には、対象客層も明らかにする。
旅館・民宿や飲食店との連携	旅館・民宿などと連携し、宿泊施設の特徴と町内の周遊観光と合わせたコースの設定やキャンペーンを実施する。

(*) ファムトリップ＝観光地などの誘客促進のため、旅行事業者等を対象に現地視察をしてもらうツアー。

推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①メディア戦略の推進			●	●	検討	調整	実施
②インターネットを活用した情報提供		●	●	●	検討	調整	実施
③旅行会社等への情報提供の工夫		●	●	●	検討・調整	実施	

8. 情報提供体制の整備

推進施策	目的
①パンフレット・マップ類の見直し、充実	様々なニーズに対応させるため、既存のパンフレット・マップ類の内容の精査を図り、情報の最新化と用途に合わせた作成を行います。
想定事業・取り組み例	
パンフレット等を含む情報発信媒体の多言語化への対応	パンフレット等の情報発信媒体を英、中、韓の多言語表記化して外国人観光客への対応を図る。
各種パンフレット、ガイドマップの整理・統合及び改訂	対象市場・客層や用途、その情報内容を精査し、既存のパンフレット・マップ等を整理・統合して、より効果的なものに改訂する。
散策マップ作成	駅や町営バス運行路線周辺の散策コース案内マップを作成する。
観光資源のデータベース化	刻々と変化する情報に対応するため、観光資源の情報を整理し、データベース化することで、効率的な管理を行う。

推進施策	目的
②観光案内所の整備	観光案内の拠点となる案内施設の整備に取り組みます。
想定事業・取り組み例	
観光案内所の整備	観光客の多様なニーズに対応するため本町南部（旧中川根町）エリアにおける観光案内施設の整備を図る。

推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①パンフレット・マップ類の見直し、充実		●	●	●	検討・調整	実施	
②観光案内所の整備				●	検討	調整	実施



9. 景観形成と景観修景

推進施策	目的
①自然景観の見せ方の工夫	本町の豊富で多彩な自然環境を最大限に活かし、観光客へ自然の魅力を伝えていきます。
想定事業・取り組み例	
エコツーリズム、グリーン・ツーリズムの推進	エコツーリズムやグリーン・ツーリズムを推進し、観光客等に自然環境や地域固有の魅力を伝え、理解を深めてもらうことにより保護や保全を図る。
森林療法ツアーの実施	森の案内人のガイドにより、豊かな緑、澄んだ空気や清らかな水等がもたらす癒しの効果を感じるとともに、温泉や地域の食材等など本町の魅力を体感する。
「展望・眺望ポイント」を定め、周辺の環境整備を実施	自然景観の優れたポイントを選定し、展望地・眺望地として周辺の環境整備を進める。
登山道の整備	森林レクリエーション推進協議会や町の単独事業として、案内板の設置、登山道維持・補修等を行い、登山者の安全対策を図る。



推進施策	目的
②里山景観の修景	常に美しい里山の景観を維持するため、保全活動等を推進します。
想定事業・取り組み例	
環境保全活動の推進	地域住民の協力のもと、田畑の保全、また地域の美化活動に取り組み、美しい里山環境の保全を図る。



推進施策	目的
③温泉集落の修景	町内4つの温泉地の特性を活かしながら、温泉集落としての景観づくり、環境整備に取り組み、観光客の印象に残る「美しい温泉地」として修景・整備していきます。
想定事業・取り組み例	
温泉地としての景観に配慮したまちなみ整備	周辺の自然環境との調和を図りながら、温泉集落一体で、建築物や工作物の形態や意匠、また花や樹木の植栽等に配慮し、統一の取れた美しい景観形成と、周辺の自然環境との調和を図る。
温泉集落のイメージづくり	集落内すべての旅館や民宿経営者の意識改革を図るとともに、温泉集落としての雰囲気・イメージづくりに取り組む。



推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①自然景観の見せ方の工夫		●	●	●	検討・調整	実施	→
②里山景観の修景	●	●		●	検討	調整	実施
③温泉集落の修景	●		●	●	検討	調整	実施

10. 道路環境の整備

推進施策	目的
①主要幹線道路の整備の推進	マイカーやバスで町内に訪れる観光客のスムーズな移動が行えるよう、高速道路のICからのアクセス、町内の周遊に供する主要幹線道路の環境整備を推進します。
想定事業・取り組み例	
景観間伐の実施	国県道を中心に、景観や安全な通行などの観点から交通往来の多い路線を中心に人工林の景観間伐を行う。
国県道の渋滞対策の実施	ゴールデンウィークや秋の紅葉シーズンに、国県道の2箇所では休日の交互通行を実施し、渋滞緩和を講じる。
狭隘な道路区間の整備	円滑な入り込み、町内周遊に供する主要幹線道路について、狭隘箇所の改良やバイパス化などについて要望します。

推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①主要幹線道路の整備の推進			●	●	検討	調整	実施

11. 交通環境の整備

推進施策	目的
①二次交通の整備	観光客の利便性の向上や交通弱者への対応として、鉄道等で訪れる観光客に対し、千頭駅をはじめ交通拠点から観光地点までの移動や、観光地点間の円滑な周遊を可能とする二次交通の整備に努めます。
想定事業・取り組み例	
季節型のシャトルバスの運行	桜や紅葉のシーズンにおいて、観光客の利便性の向上や交通の充実を目的にシャトルバスの運行を行う。
パークアンドライドの推進	ピークシーズンにおいて、駅や観光・宿泊拠点などにおける駐車場の充実を図り、バスなどの公共交通機関による移動を推奨する。

推進施策	目的
②案内・誘導サインの整備	観光客の利便性の向上のため周辺環境に配慮しながら誘導や紹介のための効果的なサインの設置を行います。
想定事業・取り組み例	
観光看板等の設置	本町へのアクセス道沿線及び大井川鐵道や JR の駅等の他、バスや鉄道車両内に、観光 PR のための看板や広告掲示を行う。
文化財案内板の設置	町内における国、県、町の文化財の看板を設置する。また、修繕の必要な看板は随時改修を行う。

推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①二次交通の整備			●	●	検討	調整	実施
②案内・誘導サインの整備			●	●	検討	調整	実施



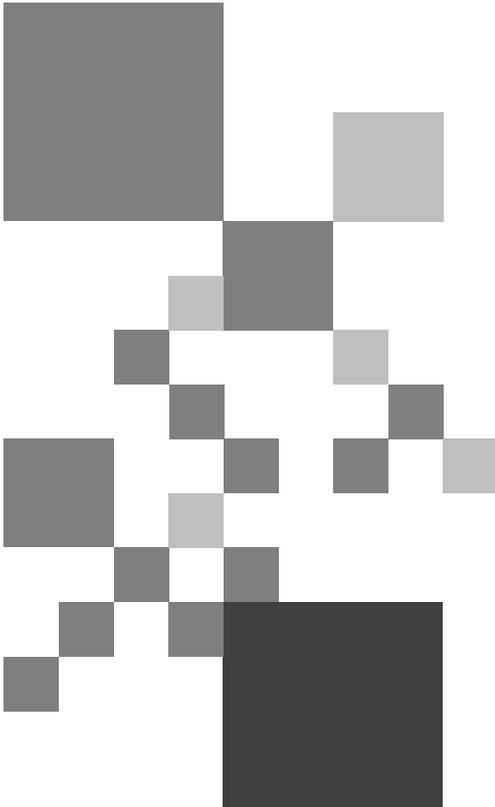
12. 観光施策推進に向けた連携体制づくり

推進施策	目的
①観光協会の組織強化	まちづくり観光協会と商工会、地元事業者など、観光振興に携わる各種組織との役割分担を明確にしながら、本町の観光の中核を担う組織として、主体的な活動を推進していきます。
想定事業・取り組み例	
観光情報の提供	町の観光における総合窓口として、情報の提供や観光商品の提供を行う。
組織の基盤強化	まちづくり観光協会の活動を円滑に進めるため、人材と財源の確保を図る。

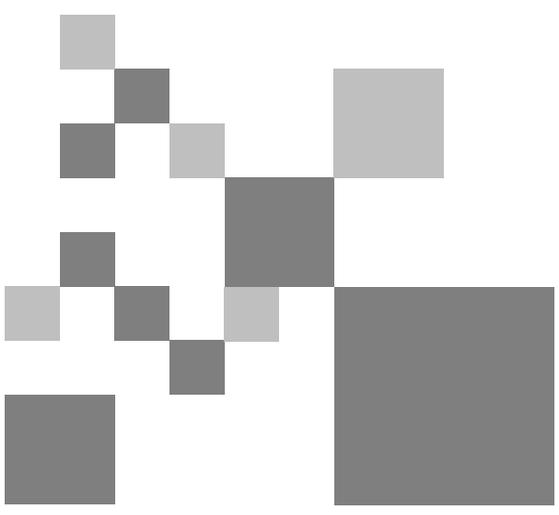
推進施策	目的
②多様な主体の連携による体制強化	本町における観光振興を図るため、町内外の様々な活動主体と協力・連携による体制を強化し、観光地としての発展を目指します。
想定事業・取り組み例	
NPO等の民間団体との連携	多様化する観光ニーズに対して、きめ細かな対応を図るため、本町の観光振興に携わるNPOや地域団体との連携を図る。
地元事業者との連携	町内外で開催される観光イベントなどへの参画や物販施設への出店・出品を推進し、販路拡大などを支援する。
大井川流域の市町との連携	大井川流域や周辺の市町と広域連携による観光誘客、観光PRを行う。

推進施策	目的
③行政内関係各課の連携体制づくり	地域住民や事業者等の協力に加えて、行政内においても関係各課の連携を深め、庁内の広域的かつ機能的な協力体制づくりを推進します。
想定事業・取り組み例	
本計画の進捗管理・評価	観光振興に係わる事業の進捗、実施状況を年度ごとに管理・評価し、3年ごとに施策や事業の見直しを行う。
所管課との連携	河川、森林、公園等の庁内各課が所管する資源について、観光振興の視点による情報提供・発信や協力を行う。
トップセールスの推進	町長自らが町の紹介、情報発信を行うなど、観光地としてのプロモーション活動を推進する。

推進施策	推進主体				実施期間		
	町民	地域団体・NPOなど	事業者	行政	短期 [~3年]	中期 [3~5年]	長期 [5~10年]
①観光協会の組織強化				●	検討・調整・実施		
②多様な主体の連携による体制強化		●	●	●	検討・調整・実施		
③行政内関係各課の連携体制づくり				●	検討・調整・実施		



資料編



■川根本町観光振興計画策定スケジュール

年 月	作業項目	委員会など	協議・報告事項など
平成 24 年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎データの収集 ・現状データの収集 ・年間の作業工程の確認 	—	—
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎データの収集 ・現状データの収集 ・ワークショップの企画立案 ・団体等ヒアリングシート配布 	—	—
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・計画骨子案の作成 ・ワークショップ取りまとめ及び企画立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回ワークショップ 9月20日 19:00～ 	<ul style="list-style-type: none"> 1)川根本町の魅力を知り共有しよう 第1回 参加人数 34 名 ・オリエンテーション ・ワールドカフェ
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ取りまとめ及び企画立案 ・団体等ヒアリング調査 ・庁内事業調査シート配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回ワークショップ 10月11日 19:00～ ・第3回ワークショップ 10月25日 19:00～ 	<ul style="list-style-type: none"> 1)テーマ別川根本町の観光を考えよう 第2回 参加人数 16 名 第3回 参加人数 18 名 ・テーマ別ワークショップ
		<ul style="list-style-type: none"> ・団体等ヒアリング調査 面談実施期間 10月19～31日 	<ul style="list-style-type: none"> 調査対象 12 団体・企業 面談実施団体・企業 ・特定非営利活動法人 かわね来風 ・株式会社 時之栖りのくに ・エコツーリズムネットワーク ・川根本町商工会 ・寸又峡美女づくりの湯観光事業協同組合 ・大井川鐵道株式会社 ・まちづくり観光協会
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等ヒアリング取りまとめ ・庁内事業調査取りまとめ ・計画案(第1章～3章)の作成 	—	—
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案(第4章～5章)の作成 	—	—
平成 25 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案の調整 ・トップインタビュー 	<ul style="list-style-type: none"> トップインタビュー 1月17日 13:00～ 	—
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの実施 ・概要版の作成 ・計画全編の調整 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回 商工観光委員会 2月7日 13:30～ 	<ul style="list-style-type: none"> 1)策定スケジュールについて 2)計画素案内容の検討について 3)その他
		<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメント 2月20日 ～3月21日 	
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの回答 ・計画書最終案の作成 ・概要版の調整 	<ul style="list-style-type: none"> 第3回 商工観光委員会 3月25日 9:00～ 	<ul style="list-style-type: none"> 1)パブリックコメントの結果について 2)計画最終案の検討について 3)計画の概要版について 4)その他

■川根本町商工観光委員会名簿

任期 平成 24 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

No	氏名	役職	備考
1	佐藤 四郎	委員長	
2	中田 隆幸	副委員長	
3	中野 暉	委員	
4	菊池 松巳	委員	
5	中村 國海	委員	
6	松下 勝利	委員	
7	望月 孝之	委員	
8	木村 宜史	委員	
9	高田 悦子	委員	
10	井澤 玉枝	委員	

■事務局名簿

No	氏名	役職	備考
1	筒井 佳仙	商工観光課 課長	
2	竹野 克彦	商工観光課 観光室 室長	
3	中村 幸貴	商工観光課 観光室 主任主査	
4	鈴木 章生	商工観光課 観光室 主査	

川根本町観光振興計画

発 行 : 川根本町

編 集 : 商工観光課 観光室

住 所 : 〒428-0411

静岡県榛原郡川根本町千頭 1183-1

TEL 0547-58-7077

FAX 0547-59-3116

発行年月 : 平成 25 年3月
